

計画推進評価部会における意見と県の対応

資料3

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等	担当局
「新かながわランドデザイン実施計画」の進行管理について						
1	米田委員	PJ9 今後の課題と対応の方向性	こども食堂は多様性があり、困窮対応だけではない。こどもの貧困対応にはあすなろサポートステーションがあり、『子ども食堂等』と特記されていることに違和感がある。 文案として、以下のように修正をお願いしたい。 旧『子ども食堂等の取組を支援するだけでなく、子ども食堂等を利用する子どもたちをみんなで見守る地域づくりに向けた取組を進めていく』 新『子ども食堂等の取組を支援するだけでなく、子どもたちをみんなで見守る地域づくりに向けた取組も進めていく』	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。		
2	米田委員	PJ9 子ども食堂について	将来的に子ども食堂は困窮の問題ではなく、子ども・若者支援、居場所づくりなど社会関係資本の予防的なものとして、子ども・若者に関するプロジェクトに位置付けた方が良い。	ご意見については、次期実施計画の策定に向けて検討してまいります。		
3	伊達委員	評価の記載等	EBPMのプロセスを十分に経てないと感じた。 <u>個別事業のロジックモデルとして「こういう介入をすればこの問題がこう解決するはずだ」という仮説検証がされていないことが課題だと思う。</u> <u>魅力のある神奈川とはどういったものかという主観的考察や県として施策を推進する上での課題に関する記載が必要ではないか。</u>	ご意見については、次期実施計画の策定に向けて検討してまいります。		
4	中田委員	県民への伝え方について	一次評価、二次評価ともに「概ね順調」という評価が多い。概ね順調に進んでいるものの最終的なゴールはどこを目指しているのか。 県庁が一生懸命やっていることが最終的に県民に届くのか疑問が残る。県民に対する真剣度がこれでは足りない。 <u>「神奈川が良くなったという県民の感覚」が最終的なゴールであり、施策を実施する県がどんなに頑張っても県民がそう感じていなければ意味がないので、そういった視点をもっと持ってほしい。</u>	ご意見については、今後の施策に活かせるよう参考にしてまいります。		
5	矢島委員	評価手法について	県民の目線に立つということについて課題がある。 <u>もともと目標値が低いにもかかわらず、それすら達成できていないため、達成率90%や概ね順調と言われても県民が納得するか疑問。</u>	ご意見については、次期実施計画の策定に向けて検討してまいります。		
6	矢島委員	KPI達成率の計算方法について	KPIの達成率の計算方法は一律でないのであれば、 <u>計算方法はそれぞれのKPIに対して示すべきではないか。</u>	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。		
7	小野島委員	KPI達成率の計算方法について	<u>数値をどのように計算しているかわからないということは非常に課題だと思う。達成率300%というのはどういうことかと思われるので、補足説明は非常に重要。</u>	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。		

NO	委員名	項目名	意見概要	対応	記載内容等	担当局
8	中西委員	目標値の見直しについて	将来的に達成したい指標に到底到達できないような数値が設定されていて、過程をみても難しいだろうという際に、「順調に進んでいる」と評価してよいのか判断が難しい。 KPIだけを見るのか、総合的な状況をどこまで勘案するのが難しい。評価の本旨からすれば、KPIだけにとらわれてはいけないと感じた。すでに目標を達成しているKPIもあり、 <u>毎年ではないにしても、目標値を見直す機会があればPDCAサイクルの観点からも望ましいのではないか。</u>	ご意見については、次期実施計画の策定に向けて検討してまいります。		
9	中西委員	P.7 評価区分の凡例について	評価区分の達成率の凡例記載を見るとKPIでしか評価していないように見えてしまうので、 <u>一次評価の目安であることとして、「次のとおり設定した上で、状況を勘案して県の一次評価にしています」などの説明を加えたほうが良い。</u>	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。		
10	矢島委員	KPI達成率の計算方法について	<u>KPI達成率が200%などになる可能性のある計算方法に課題がある。</u> 次年度以降見直してもらいたい。	ご意見については、次期実施計画の策定に向けて検討してまいります。		
11	原嶋委員	評価の総括	PJ5、PJ8について、KPIは達成できているが、本質的に目指しているものがマイナスになる課題が生じている。 <u>このことについて、評価の総括に「PJ5、8については注視が必要」と記載が必要ではないか。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。		
12	伊達委員	目標値の設定根拠の説明について	様々な性質のものが混在してKPIとして設定されており、一つにまとめて評価することは無理である。件数を目標値としているのに対象となる母数の記載がないなど、KPIの質に課題があるものも多い。本来はKPIの質ごとにカテゴライズし、その区分ごとに達成率を把握することが望ましい。 <u>KPIの設定背景も説明として明示するなどの工夫が必要。</u> そうすることで県民に寄り添った説明となったり、県の苦勞を伝えることにもなるのではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定に向けて検討してまいります。		
13	小池委員	目標値の設定根拠の説明について	神奈川県として達成すべき目標数値の設定の際に、 <u>他県比較を行い、最も良い取組の状況等に関する数値をベンチマークとして示すなど、比較対象などを基準として設定しているものがあるか。</u> それを一緒に示すことで分かりやすくなるのではないか。 県民が考える際によりどころとなるようなポイントをベンチマークとして示せると良いのではないか。	ご意見については、次期実施計画の策定に向けて検討してまいります。		
14	坪谷委員	目標値の設定について	相談件数や対応件数をKPIを置いているものが多くあった。 <u>件数で施策の成果を測る場合、相談件数が増えているから良いとするのかなど、その数字の持つ意味をどのようにとらえるべきか考える必要がある。</u> 相談事業を県全体としてどのようにとらえるのか、政策ごとやPJごとにKPIを設定するのかなどを考えてもらいたい。	ご意見については、次期実施計画の策定に向けて検討してまいります。		
15	矢島委員	PJ1について	待機児童問題は0人を目標に掲げて30年間経っているが、達成には至っておらず、 <u>概ね順調という表現に強烈な違和感がある。</u>	ご意見を踏まえ、二次評価に記載しました。		
16	小野島委員	P.12 評価の総括	PJ1、5、8に共通する課題として、 <u>本来目指すべき目標にむけて進捗していないにもかかわらず、KPIは順調に推移している課題について評価の総括にて言及し、プロジェクトの個別の課題としてはそれぞれのページで記載する形とするのが良いのではないか。</u>	ご意見を踏まえ、評価報告書に反映しました。		